

# Cover History

— 表紙写真由来 —

## 蓼科湧水の旅の終着点 みまき大池

—長野県小諸市—

長野県農業農村多面的機能発揮促進協議会 才川 知利

### 1. はじめに

表紙写真は、長野県小諸御牧原の台地（図-1）に造られた農業用ため池である。

このような台地に、どのようにしてこれだけの水を貯えられたのだろうか。周辺を見渡しても、北東にそびえる浅間山、その反対側には緩やかな稜線を持つ蓼科山。そして眼下には、整備された圃場が見えるばかり。河川などは見当たらない。

この水の源は、はるか蓼科山の麓から湧き出る湧水群である。この湧水を御牧ヶ原の台地まで導いたのは、昭和46年に完了した県営御牧ヶ原農業水利改良事業である。女神湖をはじめ、さまざまな河川、管水路を経て、56 kmもの長い道のりを旅してこの地にたどり着いた（写真-1）。

平成10年からは、県営畑地帯総合土地改良事業小諸御牧原地区が着工し、地区内に点在する36もの小さなため池を統合するとともに、毎秒0.006 m<sup>3</sup>というわずかな用水を貯え、浅間山を湖面に映すほど大きく、美しい池へと生まれ変わった。

貯えられた水は、これまで以上に有効利用され、農地46 haを潤し水稲や果樹などの安定生産に寄与している<sup>1)</sup>。



図-1 位置図



写真-1 水源地、蓼科山を望む

### 2. 地域の概要

(1) **事業導入の経緯** 本地区は、内陸性気候で年間降水量は約900 mm、標高約700 mの緩やかな台地に位置している。開拓の歴史は比較的新しく、明治3年、小諸藩主の命を受けた鳥居義処の取組みから始まった。河川などの水源のない台地では、いくつものため池を築造し、天水を頼りとしたため池灌漑以外の方策はとれず、農業用水の確保には大変苦慮してきた。

その台地に転機が訪れたのは、昭和46年に完成した県営御牧ヶ原農業水利改良事業による水源開発であり、蓼科山の湧水が導水されたことで水田開発も大きく進むことになった。

しかし、依然として数多くのため池に頼らざるを得ない営農形態は変わることはなく、このことが大規模な面整備を行う際の支障となり、ため池の老朽化による水不足や農業従事者の高齢化により、次第に農地の荒廃化が進んだ。

こうした課題を解決するため、昭和60年代から台地の農地・農業用水の整備構想の検討が開始され、なかでも事業推進意欲の高かった本地区が、平成10年に工事着手された<sup>2)</sup>。

(2) **事業の目的と特徴** 事業では、用水の安定供給を図るとともに区画整理・畑地灌漑・農道整備を実施し、担い手の育成、農作業の効率化および果樹等高

収益作物の導入を図ることを目的として進められた。

本地区は、蓼科山の湧水を水源としているが、その水利は水田受益分に限られたもので、分量も毎秒0.006 m<sup>3</sup>と非常に少ないことから、貴重な水を効率的に利用するため、既存の小さなため池を1つに統合して「みまき大池」を造り、貯留することで安定的な水量の確保を目指した。

さらに、水田以外の畑地等にも水を送るため、地区内で利用した用水を下流の「姥が沢池」に再び集め、「みまき大池」に戻すことで循環灌漑を採用した。

限られた用水を最大限に利用するため、受益地への送水はすべて管水路とし、水田の各圃場には「自動給水栓」を設置することで、用水管理の省力化と効率化の両立を目指した。

(3) 計画の概要 計画の概要を表-1に、事業計画図を図-2に示す。

### 3. 事業効果の発現状況

(1) 直接的効果 第1に、区画整理工事による区画の拡大と幹線農道の舗装により、大型機械が導入され、効率的な営農が可能となった(写真-2)。これにより、担い手農家の経営面積の増加が図られた。

第2に、ため池の統合により用水の安定供給が可能になり、水管理労力が大幅に軽減した。また、受益地への送水はすべて管水路とし、「自動給水栓」を設置したことで、用水管理の省力化と効率的な水利用が図

られた。これにより高収益の作物の栽培が始まった。

第3に、事業実施前は、作物は水稻、バレイショ等に限られていたが、基盤整備により農業用水が安定し、果樹(リンゴ、ブドウ等)の栽培が拡大し、現在は10.6 haとなった(表-2、写真-3)。

(2) 間接的効果 第1に、農家の高齢化等による農地の遊休化を防ぐことを目的に、農家8人で御牧原畑作振興組合が設立された。区画整理された圃場で比較的手間のかからない菜の花やソバ等を栽培し、菜の花を菜種油に加工し、広域農道沿いの直売所で販売している。この直売所では、御牧原台地で生産された特産の白土バレイショ、野菜等を販売し、地産地消の展開を図っている。

第2に、統合された調整池は、御牧原台地の上にあることから、眺望が素晴らしく、アニメ映画「あの夏で待ってる」のシーンに使われるなど、観光資源にもなっている。

「あの夏で待ってる」(通称「なつまち」とは、2012年1~3月に放映されたアニメである。小諸市が舞台として登場しており、PRのため小諸市も制作に協力した。

表-1 計画の概要

工事内容	区画整理 46 ha (水田 12 ha, 畑 29 ha, 樹園地 5 ha) 調整池 1カ所 (みまき大池) 畑地灌漑 34 ha
工期	平成 10~25 年度
総事業費	21 億 9 千万円



写真-2 区画整理された圃場と工事中のため池(平成 21 年)

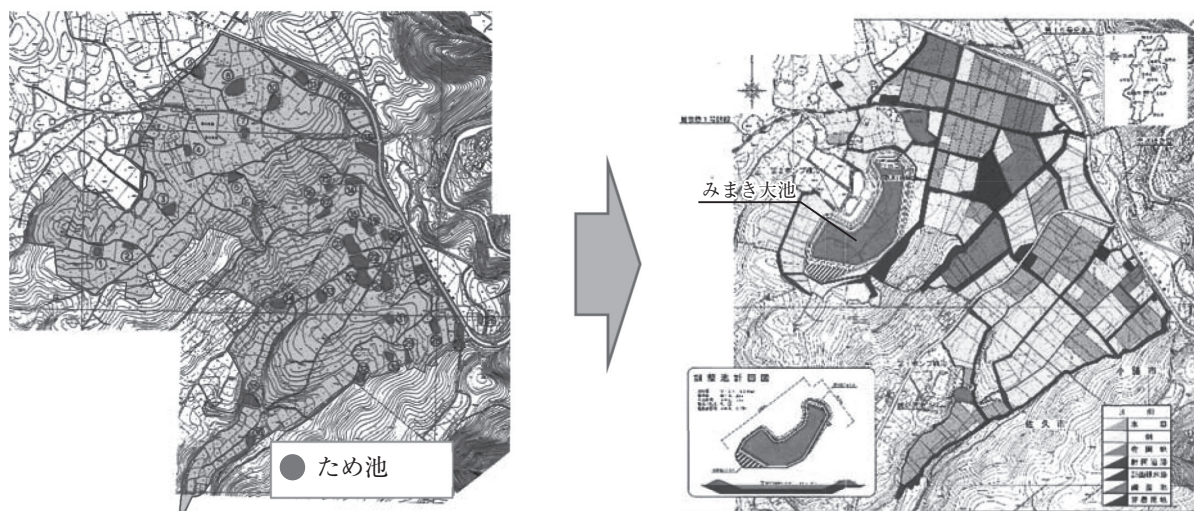


図-2 事業実施前(左)と事業実施後(右)

ストーリーには、8ミリカメラが趣味の高校生・霧島海人と、自分の記憶にある風景を求めて町へやって

きた宇宙人の少女・貴月イチカが登場する。その海人が、イチカに告白する重要な舞台として、みまき大池湖畔が登場し、アニメファンの“聖地”となっている。

#### 4. おわりに

近年、ため池管理者の高齢化等により、農業用ため池の管理が課題になっている。一方、地震や豪雨などの自然災害も多発しており、農業用ため池の適正な保全管理が重要になっている。

本地区で実施した農業用ため池の統廃合は、農業用水の安定供給と維持管理の軽減に加え、農村地域の防災減災対策としても効果が大きい。本地区と同様の課題を抱える他地域にも本地区の事例が参考になれば幸いである。

最後に、このため池は幾多の曲折を経て、多くの関係者の尽力により完成している。事業の推進のために日夜にわたり献身的に活動された関係者に改めて敬意を表したい。ため池を中心に地域の絆は深まっており、今後、この地域が大きく躍進することを期待する。

#### 引用文献

- 1) 長野県土地改良事業団体連合会：信濃の疏水 みまき大池（佐久地方事務所 櫻井康一郎），p.14
- 2) 長野県佐久地方事務所：県営畑地帯総合土地改良事業 小諸御牧原地区 竣工記念誌（2008）

表-2 作付面積の推移

作目	作付面積 (ha)	
	実施前	令和元年6月現在
水稲	9.3	13.8
大豆	13.4	0.4
ソバ	—	8.9
パレイショ	12.3	5.6
野菜	10.4	5.0
ブドウ	—	1.3
リンゴ	1.0	9.3
その他		1.4
計	46.4	45.7



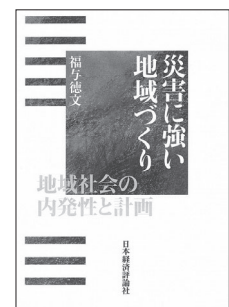
写真-3 さまざまな品種が実るリンゴ園

## 図書案内

### 災害に強い地域づくり

福与徳文 著

体裁：A5判 200ページ 発行日：2020年7月15日  
 価格：3,200円＋税 ISBN978-4-8188-2564-2  
 発行：日本経済評論社



[本欄は図書の紹介のみです。希望者は直接発行元へお申し込みください。]